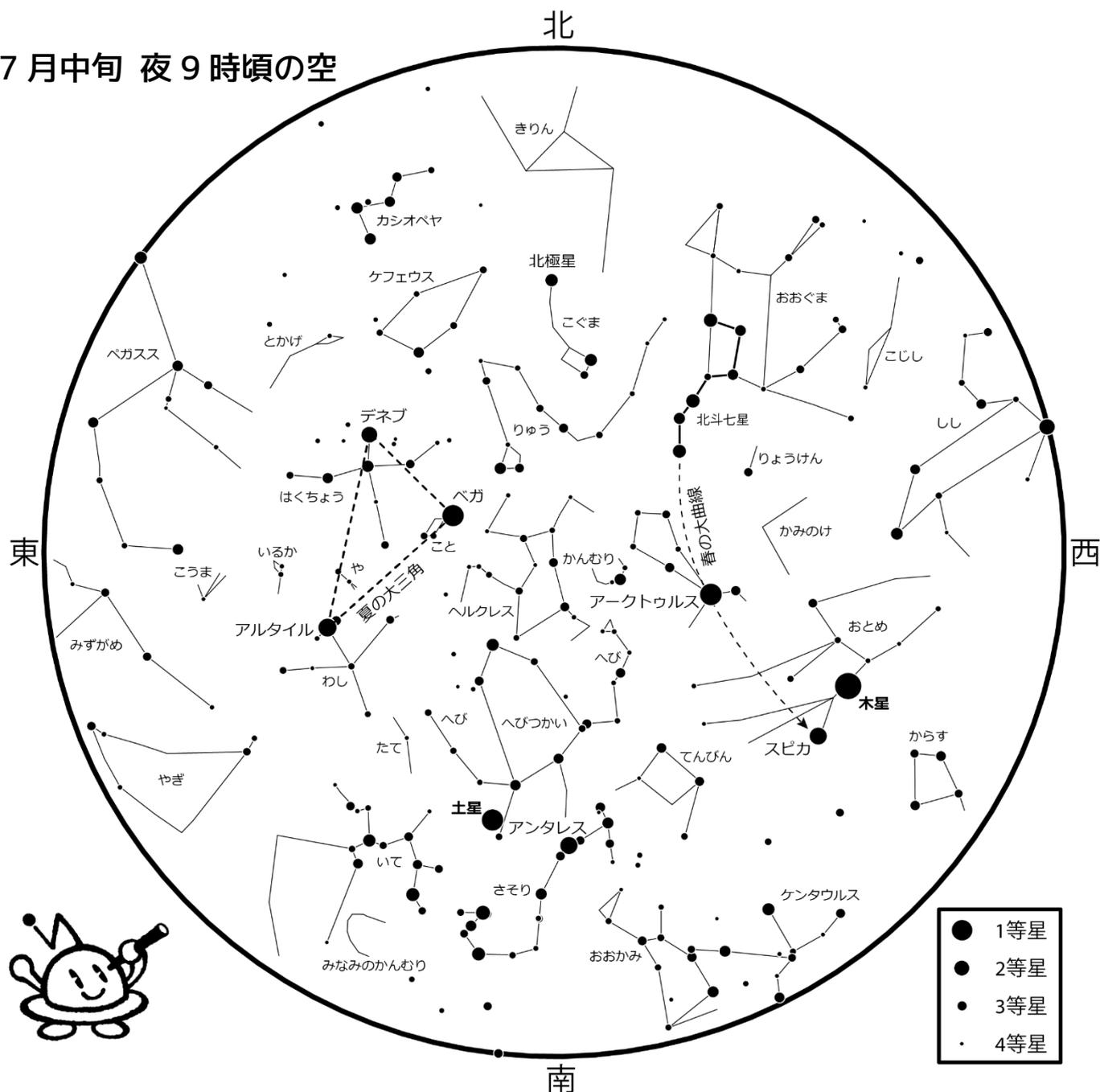


阿南市科学センター 7月の星空案内

7月中旬 夜9時頃の空

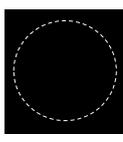


梅雨の気配が少し残りますが、暑い夏が目前にせまる7月になりました。7月といえば七夕。夜空にはおり姫星にあたるベガ（こと座）と彦星にあたるアルタイル（わし座）を見つけることができます。さらにデネブ（はくちょう座）とこれらの星を結べば、夏の大三角をえがくことができます。夏の大三角の周辺には「いるか座」や「や座」といった小さな星座もあり、7倍程度の双眼鏡で観察すると存在感のある姿を楽しむことができます。南の空にはさそり座が見え、1等星アンタレスの赤い輝きと、その東側に見える土星（0等星）の輝きが目を引くことでしょう。なお西寄りの空では春に引き続き木星（-2等星）を観察することもできます。

天体観望会の予約・お問い合わせ先

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川淵8-1 電話 0884-42-1600

◇ 月の満ち欠け

名 称	上弦の月	満月	下弦の月	新月
形 状				
見える日	7月1日	7月9日	7月17日	7月23日

※7月31日も上弦

◇ 惑星について

名 称	水 星	金 星	火 星	木 星	土 星
見どころ	7月中旬の日没直後、西のごく低空で見える。	夜明け前、東の空で見える。 (明けの明星)	太陽に近いため観察できない。	日没後、西の空に見える。	観察好機。アンタレスの東側に見える。
明るさ	約0等	約-4等	-	約-2等	約0等

◇ 今月のおすすめ天体

【球状星団 M13】

M13 はヘルクレス座に位置する北天で最も明るい球状星団です。名前の通り空間的に星が球状に集まり、この M13 にはおよそ数十万個の星がひしめきあっていると考えられています。科学センターの望遠鏡では数えきれないほどの星の集まりをお楽しみ頂けます。

球状星団には赤く年老いた星ばかりが存在し、年齢は 100 億歳にも達することから、宇宙の古代都市とも呼ばれています。さらに、球状星団までの距離は数万光年に達するものばかりで、天の川銀河の円盤を取り囲むハローという空間に分布しています。なぜこのような分布をしているのか、その理由は現在も天文学者たちの課題として残されています。



図 1: M13 (2017/06/14 撮影)

【土星が観察好機！】

2017 年は土星の環 (わ) の表 (北側) が約 30 年振りに最も太くひろがって見えます。科学センターの望遠鏡で観察すると、大気の状態によってはカッシーニの空隙 (くうげき) と呼ばれる、環にある黒い筋 (環のすき間) を見る事ができるでしょう。

土星の環は軌道面の垂直方向から約 27 度傾いた状態で太陽の周囲を回っているので、年によって少しずつ環の見え方が変化します。そのため環の表 (北側) と裏 (南側) は、地球から約 15 年おきに観察できます。来年以降は少しずつ環が細くなり、2025 年 (4 月下旬) には環を真横から見ることになるため、見かけ上環が見えなくなる現象も起こります。

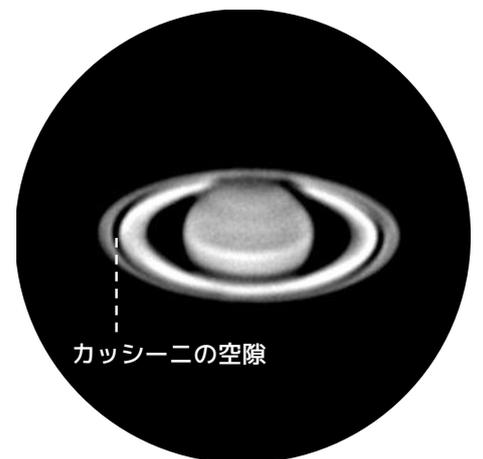


図 2: 土星 (2017/04/29 撮影)